

専門研究

## 道徳科 専門研究部

研究主題

### ユニバーサルデザインの視点を明確にした 道徳授業の工夫

西富小学校

萩原 史貴

山口小学校

川那子洋介

指導者 東京家政大学

特任准教授 鈴木 邦夫

担当指導主事

大森 恵

## 道徳科専門研究員の研究によせて

東京家政大学 特任准教授 鈴木 邦夫

今年度、小学校では道徳の時間が「特別の教科 道徳」となり7年目を迎えました。深刻化するいじめ問題への対応を契機に教科化されましたが、最近はその在り方が問われるような事件が目立つようになりました。昨今の特殊詐欺の被害も減ることがないまま、SNSを利用した闇バイトによる強盗事件がしばしば報道されています。人を騙すだけでなく、暴力も厭わない傾向が顕著になっています。

以上の事柄は子供の事件ではありませんが、健全育成を考える上で、日本の将来を担う子供たちの心の教育の重要性を再考する契機と強く感じています。そのためにも学校が推進する心の教育・道徳教育を補充・進化・統合し、一層実のあるものにする道徳科の授業改善は喫緊の課題と言えます。その際欠かせないのは「考え議論する道徳」「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫です。ここ数年、道徳科専門研究員の指導でお世話になっておりますが、授業改善の進展が年毎の研究員の真摯な努力の成果からも伺えます。本市の研究員制度のもと、道徳科授業は、量的充実から質的充実へと授業改善が着実に進行しているものと実感しています。

令和3年の中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』には『「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる』とあります。さらに、文部科学省の教育振興基本計画(令和5年度から9年度)には「誰一人取り残されず、全ての人々の可能性を引き出す 共生社会の実現に向けた教育の推進」や「豊かな心の育成」が示されています。また、「第3次所沢市教育振興基本計画」には「すべての人が、いつでも、どこからでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができる環境の実現」が基本方針の一つとして掲げられています。

上記の教育課題に対応し、今年度の道徳科専門研究員である山口小学校 川那子洋介先生、西富小学校 荻原 史貴先生の研究成果をここに報告できる運びとなりました。研究主題を「ユニバーサルデザインの視点を明確にした道徳の授業の工夫」(仮題)として一年間の研究に取組まれました。目の前の子供たちを誰一人取り残すことなく豊かな心を育むために、自分たちにできることは何か、道徳授業のこれ迄の貴重な経験と課題意識に基づいた研究に挑戦され、具体的な手立てを考案されました。本研究のキーワードとして「困難さ」「誰一人取り残さない」が挙げられます。つまり、道徳授業に臨んでいる児童が感じる困難さを減らしたい、学習の充実感をもたせたい、そのような教師そのものの原点に立ち返った研究ともいえます。

教育現場の先生方は仲間と理想を語り合い、その実現に向け努力することを厭わない方ばかりと考えます。お二人の研究成果を参考にされ、市内の先生方お一人お一人が道徳科の授業改善に向け、参考にされることを願ってやみません。

I 研究主題

「ユニバーサルデザインの視点を明確にした道徳授業の工夫」

II 研究主題について

1 社会的な背景から

「令和5年度埼玉県公立学校における児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」（埼玉県教育局）では、小学校でのいじめの認知件3016件で、前年度比 1.8%増加、中学校は5677件で前年度比9.0%増加している。不登校児童生徒数は小学校で5,958人、中学校で10,833人となり、前年度比約19%増加している。不登校児童生徒の相談内容として最も多かったのは「学校生活に対してやる気が出ない等」であった。では、学校生活でもっとやる気を出すにはどうすべきか。生徒指導提要(改訂)にもあるように、発達支持的生徒指導の視点で、1 安心して学べる学校づくり、2 学級での居場所づくり、3 児童生徒との信頼関係づくり、4 学ぶ意欲を育む授業づくり、という「魅力ある学校づくりのための4つの〇〇づくり」を進めていくことが新たな不登校児童生徒を生じないために大切である。

埼玉県教育振興基本計画の基本理念「豊かな学びで未来を拓く埼玉教育」にあるように将来の予測が困難な時代において一人一人が豊かで幸せな人生を送るとともに、持続的に発展する社会の創り手となるためには、教育の使命は極めて重要である。一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する共生社会の実現に向けた教育を推進していくうえで、道徳教育の充実がより一層求められる。

2 学校や児童の実態から

道徳科・道徳教育を充実させる事が求められている一方で、道徳科の授業に困難さを感じている児童の様子ที่しばしば見受けられる。そこで、道徳科の学習を行う上で児童がどこに困難さを感じているかを把握するため、山口小学校6年3組(27名)と西富小学校3年1組(23名)で道徳科の授業に関するアンケートを実施し以下の様な実態が浮かび上がった。

道徳科の授業が好きと答えた児童の 主な意見	道徳科の授業が苦手と答えた児童の 主な意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を聞いてくれて嬉しい。</li> <li>・道徳の授業が一番好き。</li> <li>・友達の見解を聞くのが楽しい。</li> <li>・将来しっかりとした人間になれそう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見が思いつかない。</li> <li>・何を話し合っているのかがわからない。</li> <li>・何を考えればいいかがわからない。</li> <li>・物語(伝記等)が難しい。</li> </ul>

このことから、道徳科・道徳教育をさらに充実させるためには、「自分の考えを持つ」「友達と考えを共有する」等、児童が道徳科の授業で苦手と感じていることへの適切な支援を行う必要があることが分かった。そこで、全ての児童に有効かつ適切な支援体制を構築するために、「ユニバーサルデザイン」の視点を生かした授業づくりを研究することとした。

### III 研究の内容と方法

#### 1 研究内容

本研究は、誰一人取りこぼすことなく授業に参加させるために、児童が道徳の授業において困難さを感じていることへの手立てを講じるべく、ユニバーサルデザインの視点から指導計画を作成し、実践していく。

#### 2 研究方法

- (1) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導計画の作成
- (2) 指導計画に基づいた授業実践
- (3) アンケートを用いた児童の実態調査

### IV 実践事例

仮説① 道徳科の授業において、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた手立てを構築することで、児童が感じている困難さを軽減し、学級全員が参加者になる道徳の授業に近づくであろう。

仮説② ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導過程を作成し、学級の実態に即した手立てを選択して学習計画を立てることで、誰一人取り残すことがない授業に近づくであろう。

- (1) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導計画の作成  
ア 授業のユニバーサルデザイン化モデルから手立てを考察する

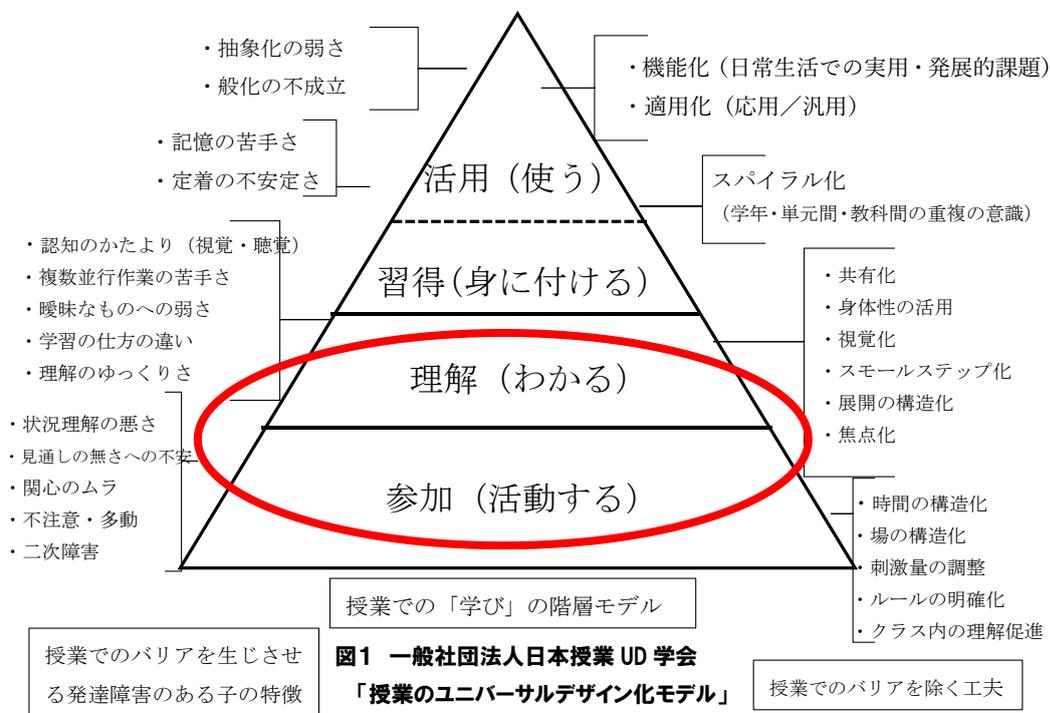


図1から「理解」「参加」に焦点を当て道徳科の特質を生かした手立てを考察する

(表1)ユニバーサルデザインの視点を取り入れた手立て

焦点化	視覚化	共有化	身体表現化	環境整備
<b>①教材へ入り込む導入</b> 教材の場面絵や教材に登場する物の実物、音声などを掲示し、登場人物に自己を投影し易くする。	<b>①知識のバラツキを揃える</b> 偉人や自然を取り扱う教材では、知識の平準化を図るために視覚資料や簡単なクイズ等を示す。	<b>①話し合い活動の工夫</b> 一人一人の授業への参加度を高めるために、児童の実態に合わせて、ペアやグループで情報交換を行う場を短い時間で複数回設定する。	<b>①動作化</b> 教材を動作化することで、教材への自我関与を実感できるだけでなく、学習への関心を持続する。	<b>①読み・書きの困難さ</b> 文章を読むことに困難さがある場合、場面絵とキーワードを板書する。また、ハイライトなどの視覚的配慮も行う。書くことに困難さがある場合は書く内容と方法を明示したり、書き出しを示したりする。
<b>②ねらいとする価値への導入</b> 導入時に児童の価値観（親切とは、思いやりとは等）を問うことで、児童がその時点で持っているイメージを引き出し易くする。	<b>②再現構成法の活用</b> 時系列で資料を掲示する 時系列に応じて順接的に場面絵や短冊を添付して、粗筋や人物、場面、道徳的問題を理解し易くする。	<b>②共有できるふりかえりの視点</b> ふりかえりを全体で共有し、他者からの助言や励ましをもらえるように「自分の夢や希望、これからやってみたいこと」など、自分の欠点や弱さを述べるがないふりかえりの視点を示す。	<b>②動作化・役割演技</b> 登場人物に、より一層自己を投影できるように動作化や役割演技を取り入れる。	<b>②集中力の持続</b> 聞く・話す・考える・書く・動くなど、5～10分程度の短時間で活動を切り替える。
<b>③登場人物に自己を投影</b> 登場人物に自己を投影できるように、登場人物の心情など問い、共感的な理解を促す。	<b>③二分法の活用</b> 場面や行為に応じて、分けて比べる活動を行い、資料や板書の提示をすることで、他者との共通点や相違点を多面的・多角的に考える事ができる。	<b>③モデル発信</b> ペアやグループでの話し合いで誰かの考えを取り上げて議論することで、思考過程を整理し、自分の考えを持つことができる。	<b>③ハンドサイン</b> 自分の意見をサインで表すことで、自己表現への困難さを減らす。	<b>③ICTの活用</b> 場面の状況や、意見の交換などを行う際に、共有しやすいように、ICT機器を活用する。
<b>④教材から離れ自分事にする</b> 行為や考え方の善悪、実現可能性などを問うたり、出された意見の相違点や共通点を考えたりする。	<b>④思考の視覚化</b> 文字言語や音声言語での表現が苦手な児童には、表情絵やネームカード、数値表現などの選択場面を設定し、理由を明確にできるようにする。 ・心情メーター ・表情絵 ・ネームカード ・数値化	<b>④全員で付箋にメッセージ</b> 一人一人の考えを全員で読み合い付箋に一言メッセージを書いて渡す。他者理解につなげると共に、認め合うことで安心して表現できる学級を目指す。	<b>④日常生活や行動の再現</b> 日常生活で行っている行動や動作を再現することで、その道徳的行為の難しさや、清々しさ、良さなどを実感的に感じ取ることができるようになる。	<b>④ノートやワークシートの構造化</b> 枠や記号、書体に統一感を持たせたり、思考の流れを俯瞰できるレイアウトにしたりすることで、思考の深まりを助ける。また、ワークシートを数種類準備し、考えを表現しやすいシートを自分で選び、主体性を促す。
<b>⑤ふりかえり発問</b> 学んだことを基に「これまでの自分はどうだったか」「これまでの自分をふまえてこれからどのように生きていきたいか」等を問い、自己を見つめたり自己の生き方について深く考えたりする時間にする。	<b>⑤マインドマップ</b> 発言等で出てきた意見や考えを関連付け、つながりを「見える化」して共有することで、思考の整理を促す。	<b>⑤生活の中で活用化・機能化</b> 教材の場面や内容を自らの生活におきかえたらどうかと考える。また授業後の生活の中で触れ続けることで道徳性の定着を図る。		<b>⑤話し合い時に具体物</b> 画面や小黒板、大きなワークシート等を活用し、話し合い時に手で操作し、指差ししながら話し合えるようにする。

参考 『道徳科授業のユニバーサルデザイン 坂本哲彦』 東洋館出版社  
『おもしろすぎて授業したくなる道徳図解 森岡健太』 明治図書出版株式会社  
『通常学級のユニバーサルデザインプラン 阿部利彦編著』  
『授業のユニバーサルデザインと合理的配慮 阿部利彦編著』 金子書房

表2 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導過程と具体的支援方法例

道徳科指導過程 ※内容は道徳科「解説」より	児童生徒の実態 全員が参加するための課題・実態	研究の意図をもとに考えたユニバーサルデザインを生かした指導過程	具体的な支援方法と意図
導入—主題に対する児童の興味関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機づけの段階	実態・課題 ・教材の場面や登場人物の心情に自我関与できず、教材に興味を持てない。 ・歴史や地理などの知識にばらつきがある。	①児童がこれまでに培った知識や経験などの前提条件を揃え、道徳的価値の理解を基に、誰もが自分事として捉え自己を見つめる動機づけの段階	【焦点化】 焦① 教材の場面絵や教材に登場する物の実物、音声などを掲示し、登場人物に自己を投影し易くする。 焦② 導入時に児童の価値観（親切とは、思いやりとは等）を問うことで、児童がその時点で持っているイメージを引き出し易くする。 【視覚化】 視① 偉人や自然を取り扱う教材では、知識の平準化を図るために視覚資料や簡単なクイズ等を掲示する。
展開—ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値を基に、自己を見つめる段階	実態・課題 ・特定の児童の発言が目立ち学級全体の議論になっていない。 ・自分の考えを持っていない、もしくは発信できない児童がいる。 ・発言者以外は傍観者になり、集中力を切らす児童がしばしば見られる。 ・自分事として捉えることができず、上辺だけの意見になっている。	②道徳的行為の体験的な学習をより一層充実させることで自分事として捉え、児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値を基に、自己を見つめる段階	【身体表現化】 身① 教材を動作化することで、教材への自我関与を実感できるだけでなく、学習への関心を持続する。 身② 登場人物に、より一層自己を投影できるように役割演技を取り入れる。 【共有化】 共① 一人一人の授業への参加度を高めるために、児童の実態に合わせ、ペアやグループで情報交換を行う場を短い時間で複数回設定する。 【視覚化】 視② 時系列で順接的に場面絵や短冊を添付してあらすじや人物、場面、道徳的問題を理解し易くする。 視③ 場面や行為に応じて、分けて比べる活動を行い、資料や板書の提示をすることで、他者との共通点や相違点を多面的・多角的に考える事ができる。 【焦点化】 焦③ 登場人物に自己を投影できるような発問をすることで、共感的な理解を促す。 焦④ 行為や考え方の善悪、実現可能性などを問いたり、出された意見の相違点や共通点を考えたりする事で、教材から離れ自分事として捉えられるようにする。
終末—ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階	実態・課題 ・自分事として落とし込めず、価値理解のみとなり、自己の生き方について深く考えるまでに至らない。	③ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したり、これからやってみたいことを他者と共有したりして、今後の発展につなぐ段階	【焦点化】 焦⑤ 学んだことを基に、「これまでの自分はどうか」「これからどのように生きていきたいか」等を問い、自己を見つめたり自己の生き方について深く考えたりする時間にする。 【共有化】 共② ふりかえりを全体で共有し、他者からの助言や励ましをもらえるように「自分の夢や希望、これからやってみたいこと」など、自分の欠点や弱さを述べるのではないふりかえりの視点を示す。

参考 小学校学習指導要領解説（平成29年度告示）「特別な教科 道徳編」  
『道徳科授業のユニバーサルデザイン 坂本哲彦』 東洋館出版社  
『おもしろすぎて授業したくなる道徳図解 森岡健太』 明治図書出版株式会社

# ユニバーサルデザインの視点を取り入れた 指導過程の作成例

教材「絵葉書と切手」

(学研「新版みんなのどうとく」3年)

<p>段階 ※学習指導要領解説より</p>	<p>学習活動 ○主な発問 【補】説明</p>	<p>児童生徒の実態 全員が参加するための 課題・実態</p>	<p>●ユニバーサルデザインの視点を 取り入れた手立て ・指導上の留意点 ☆評価の視点</p>
<p>導入</p> <p>主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機づけを図る段階</p>	<p>1 ねらいとする道徳的価値への問題意識を持たせる。 ○ アンケートの結果を見てみましょう。</p>	<p>・何について考えていけばいいかが分からず、授業に参加できない児童に見通しを持たせる必要がある。</p>	<p>●<b>焦②</b> 学級アンケートの結果をもとに現時点での友情に対する価値観を共有し、改めて友情について考える動機づけにする。</p>
<p>展開</p> <p>ねらいを達成するための中心となる段階であり、教材によって、児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値を基に自己を見つめる段階</p>	<p>2 教材「絵葉書と切手」を読み、話し合う。</p> <p>○ 正子から絵葉書もらったひろ子はどんな気持ちでしょう。</p> <p>○ 「未納不足〇〇円 松本局」と書かれたゴム印を見ながらひろ子はどんな事を考えていましたか。</p> <p>○ 母の助言を聞いた時のひろ子はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>【補】友達を傷つける可能性があるので正直に伝える選択をしたのはどうしてでしょう。</p> <p>○ 友達を大切にするというのはどういう事でしょう。</p> <p>3 学習のふり返りをワークシートに書く。</p>	<p>・場面の状況や話の展開を理解することが難しい児童がいる。</p> <p>・質問が抽象的になると何を考えれば良いか分からなくなる。</p> <p>・自分の考えをもてない。発表できない。</p> <p>・友達の意見を聞いて、自信をつけてから発表したいと考えている。</p> <p>・ふり返りを書く視点が明確でなく、短文で終わってしまっている。</p>	<p>●<b>視②</b> 場面絵を「絵葉書」「定形外郵便」「未納料金」等が何かを掲示し、教材の登場人物・条件・状況等を確認する。</p> <p>●<b>焦①</b> 「ひろ子」になったつもりで通読することで、登場人物に自己を投影し、その時のひろ子の心情に寄り添えるようにする。</p> <p>●<b>身②</b> 絵葉書を受け取った時のひろ子を演じることで、ひろ子の心情に寄り添えるようにする。</p> <p>●<b>視③</b> 分けて比べる活動を行い、資料や板書の掲示をすることで、他者との共通点や相違点を多面的・多角的に考える。</p> <p>●<b>視④</b> 分類された意見の中から納得解を選択し、ネームプレートを貼ることで、それぞれの考えを視覚化する。</p> <p>●<b>共①</b> 一人一人の授業への参加度を高めるために、小グループでの話し合い活動を短時間で複数回行う。</p> <p>●<b>共①</b> 小グループで話し合い、話し合いの中で出た意見を代表者が発表するようにする。</p> <p>●<b>焦⑤</b> ふり返りを書く時間を十分に設定し、以下の視点でかけるように掲示する。 ○今までの自分はどうだったのか。 ○これからは友達と接する時にどうしたいか。</p> <p>●<b>環③</b> ふり返りの視点を教室のモニターに写し、いつでも確認できるようにする。</p> <p>☆今までの自分と友達との関わり方をふり返り、友達と互いに理解し、信頼し、助け合う大切さについて考え、ワークシートに書いている。(ワークシート)</p> <p>・ねらいとする道徳的価値を心の中で深められるように、余韻を残して終われるようにする。</p>
<p>終末</p> <p>ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したり、今後の発展につなぐ段階</p>	<p>4 教師の説話を聞き、ねらいとする道徳的価値を心に留める。</p>		

## ユニバーサルデザインの視点を取り入れた手立ての実践

### 導入 自己を見つめる動機付けの段階

焦点化①「教材へ入り込む導入」

人物像の共通理解

環境整備③「ICTの活用」

場面絵の提示

焦点化①「教材へ入り込む導入」

環境整備③「ICTの活用」

場面設定の整理

登場人物の心情に自己を投影しやすくするために、人物像や場面設定を丁寧に確認していくことで、道徳的問題が発生した際の登場人物の心情に寄り添いやすくなるだけでなく、より一層自分ごととして捉え、考えられるようになる。



焦点化②「価値への導入」

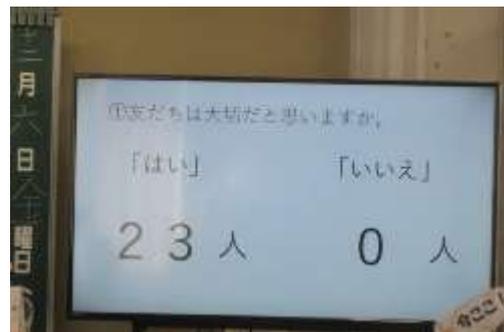
環境整備③「ICTの活用」

事前アンケート

焦点化②「価値への導入」

道徳的価値への問題提起

道徳的価値に対して、学級全体としてどのように考えているのか、また本時の内容項目について、一人一人がどのように考えているかををすることで、他者理解、人間理解につなげ、話し合うことへの動機付けを図る。



## 展開前段～後段 道徳的価値を基に自己を見つめる段階

### 視覚化① 「知識のバラツキを揃える」

#### 教材のあらすじを知る

教材のあらすじを確認する前に、児童生徒の実態に即して、共通理解が必要なものは具体物を作成し、知識の平準化を図ることで、よりスムーズに教材に入り込むことができる。



### 身体表現化② 「役割演技」

#### 登場人物になりきる

役割演技を通して教材をより深く理解すると共に、登場人物に自己を投影し、道徳的問題を自分ごととして捉えられるようにできる。



### 視覚化③ 「二分法の活用」

#### 心の葛藤を分けて比べる

### 視覚化③ 「二分法の活用」

#### 色帯



### 視覚化④ 「思考の視覚化」

#### ネームプレート

どの立場に立って考えるかを視覚化することで、他者との共通点や相違点を明確にしたうえで、自分の考えを発信することができる。



視覚化④ 「思考の視覚化」

心情メーター



視覚化④ 「思考の視覚化」

帽子の色分け



言語以外の方法を使うことで、自分の想いや考え容易に表現できるとともに、他の人の想いや考えを理解することができる。また、選択した理由を問うことで、多面的・多角的な思考や自分自身との関わりにつなげることができる。

共有化① 「話し合い活動の工夫」

ペアやグループの話し合い

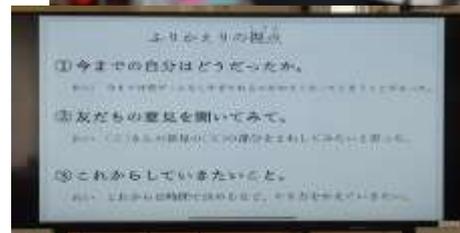


全体での発表だけでなく、少人数グループで意見を交流する機会を複数回設けることで、自分の意見に自信を持ち、授業への参加意欲を高めることができる。



環境整備③ 「ICTの活用」

ふりかえりの視点の提示



ふりかえりの視点を明示することで、自己の生き方についての考えを深められるようにする。

## 終末 今後の展望に繋ぐ段階

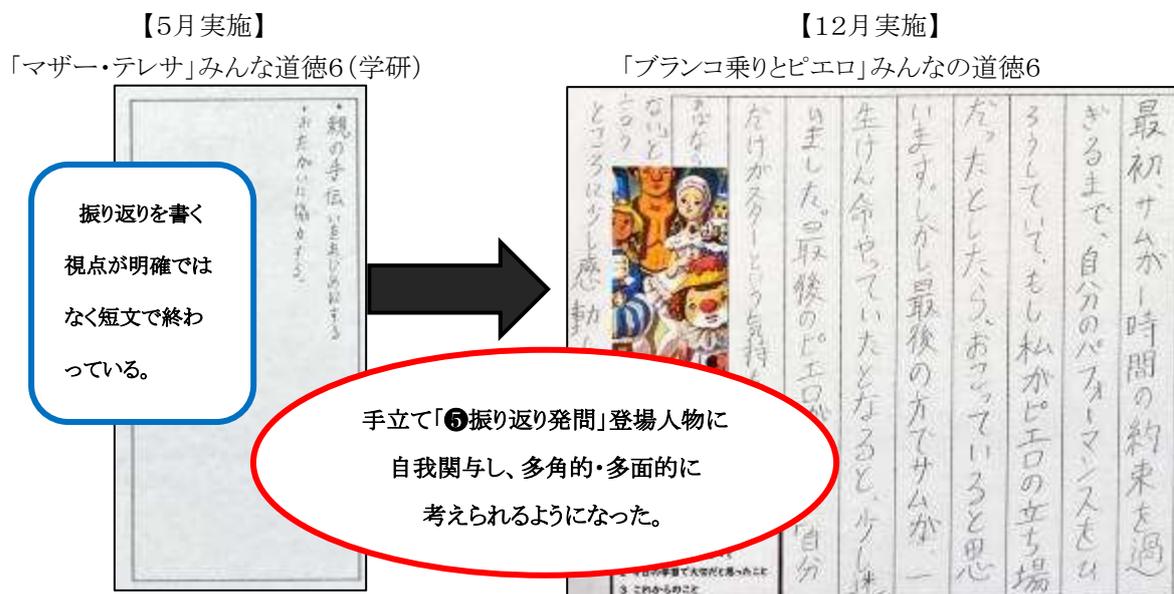
### 「余韻を残す教師の説話」

教師自身の教材に関連する実体験や道徳的価値について葛藤した経験等を語ることで、学習後も自己の生き方・考え方についての考えを深めていけるような余韻を残すことができる。





か。児童が何を学ぶのかについて導入から終末まで見通して持つことができた。同一児童の振り返りを比べると、変容を実感することができる。



## 2 研究の課題

抽象的な道徳的価値に対して、児童の興味・関心を高める導入が難しい。例えば、「礼儀」や「友情、信頼」といった道徳的価値はイメージできるが、「よりよく生きる喜び」や「真理の探究」といった道徳的価値を具体的なイメージに結びつけることが難しく、児童が教材に興味を持っていないことがあった。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた手立ての「①教材へ入り込む導入」をする際に、教材と合わせて、教室での出来事や日常生活の場面の具体的なエピソード、事例を通して説明することで、児童が教材を自分事として捉え、自己を見つめる動機付けをしたい。

児童それぞれの表現力には個人差があり、内向的な児童や表現が苦手な児童にとって、身体表現を取り入れる授業はハードルが高くなる可能性がある。これにより、過去の学習においては、児童が安心して参加しにくくなることもあった。「①動作化」「②役割演技」を取り入れる際は、内向的な児童や表現が苦手な児童に配慮し、徐々に身体表現活動に慣れさせるための段階的な手立てを講じる必要がある。

視覚教材は有効だが、見せるだけでなく、視覚教材と調和した発問を精選しなくてはならない。また、多用するのではなく、中心発問に対して集中して使うことが効果的である。また、ワークシートでの振り返りをする際は、「③ICTの活用」等で、視点を具体的に示したふりかえりが有効である。

終末を大切にすううえで、説話は、発達段階に応じて、具体的なエピソードとともに児童の記憶に深く残りやすい内容を設定する必要がある。

## VI 参考文献

- 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編 P82、83
- 『道徳科授業のユニバーサルデザイン 坂本哲彦』 東洋館出版社 P14
- 『おもしろすぎて授業したくなる道徳図解 森岡健太』 明治図書出版株式会社
- 『通常学級のユニバーサルデザインプラン 阿部利彦編著』 東洋館出版社
- 『授業のユニバーサルデザインと合理的配慮 阿部利彦編著』 金子書房